山里の春

早川盛康

みどりかおり

5年
鈴木佳生理

5年
早川　盛康

おじゃします

白浜小学校

一月二十日、白浜小学校におじゃましました。

全校生徒が屋外でマラソンをしていました。

この日は大寒、所どころに夜降った雪が残っていましたが、中には、半そで、半ズボン、はだしと、とても元気な姿もあり、みんな、子供はかぜの子とばかり校舎附近の練習コースを走っていました。

祖父母の生きざまは孫への福祉教育

淑徳短期大学教授　木谷宜弘

「ただいま！」

幼稚園から帰ったゆかりちゃんは自分のことをちゃんと自分で始末ができる子です。靴を下駄箱にそろえて入れ、かばんかけにかばんを掛けます。自分のことだけではありません。家の手伝いをよくします。買物や留守番をします。洗濯物をたたんで小引出しに入れるのは得意中の得意です。靴下は左右そろえて上部を折り込んでおくとバラバラにならないで使いやすいものですが、ゆかりちゃんは忘れずにそうします。

「この靴下は左右兄弟だから離ればなれになったらかわいそうだからね」

こう言いながら始末しているおばあちゃんのしぐさを覚えていたようです。夜寝る前には、火の用心のためバケツ一杯の水をくんでおきます。これもゆかりちゃんの役目です。

ある日のことです。ゆかりちゃんは、おばあちゃんに頼みごとをしました。

「おばあちゃんに造っていただいたこのお人形、病気で寝ているお友達へお見舞いにあげたいと思うけどいいですか」と。

ゆかりちゃんがなんの苦もなく優しさを自然に表現できる訳はおばあちゃんにあるようです。おばあちゃんは七十歳でとても元気です。「自分のことは自分でしなくっちゃ」が口ぐせです。そのうえ、いつも家族のことを思って気配りします。

おばあちゃんの生活は、身をもってする孫への福祉教育でもあったのです。

ひかり俳壇

迎春や八十路の坂も三年経ぬ　岩田　慶雄

駄句一つ筆躍らせて賀状書く　鈴木　都根

子に孫に縁談湧いて年立ちぬ　大木静波子

蛇口より若水受けて厨ごと　越川　雪枝

初電話声弾み来る遠き友　椎名　カツ

追羽根や恋ともつかぬ燃ゆるもの　伊藤　定男

ほころべる顔で賀状を廻し読む　伊藤　幸枝

山裾の解け残りたる雪惜しむ　土屋　好

初髪に霜の目立ちてクラス会　藤代　敏子

古きものうとまるる世ぞ鳥総松　椎名しげる